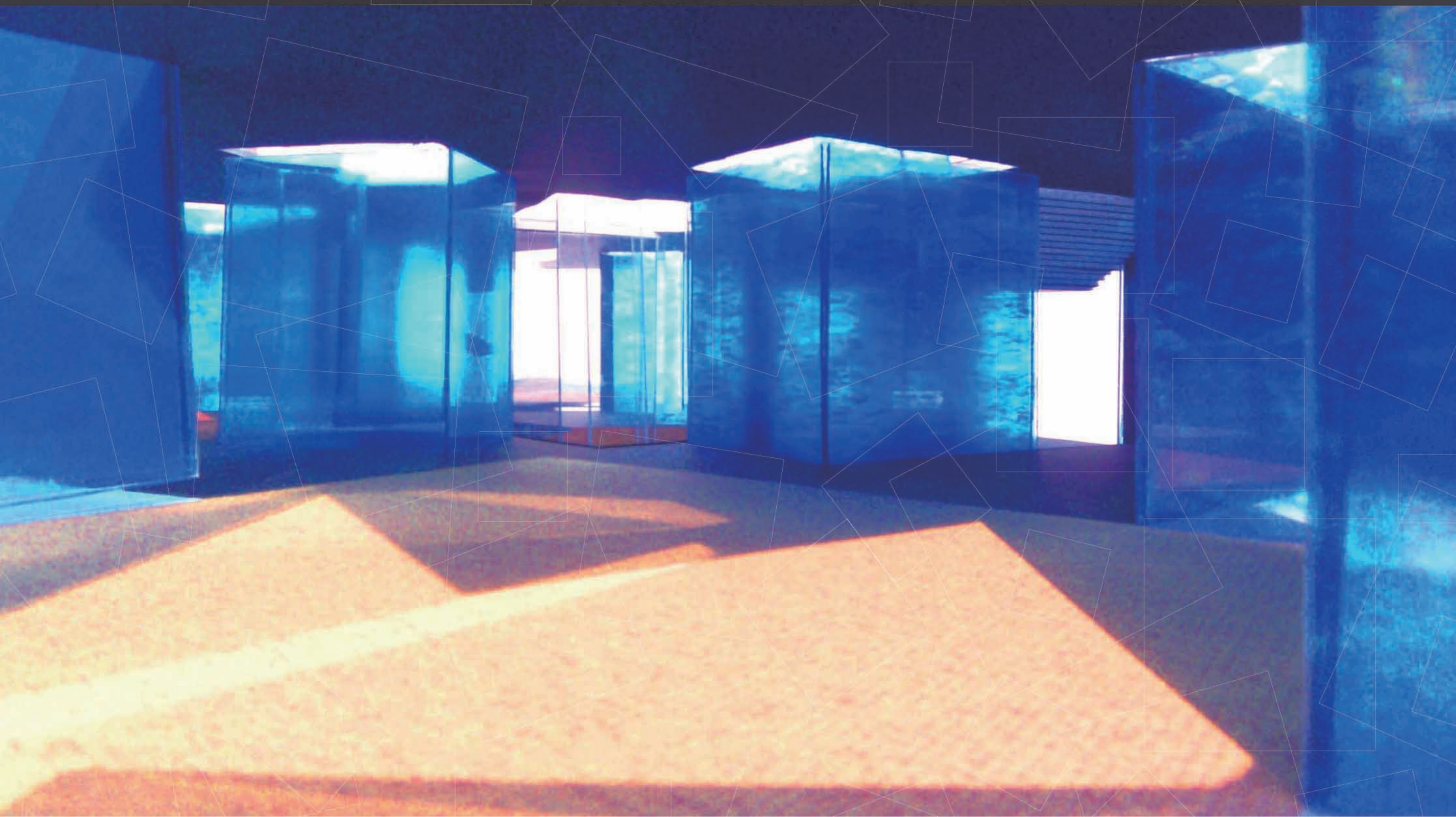


A I I B I u e



Site map

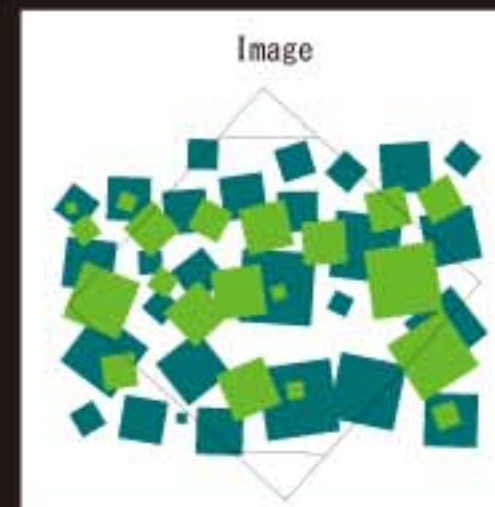


Program

世界地図の大陸からトレースした人がとどまる正方形と、その周辺に広がる魚がとどまる正方形を敷地全体に広げ全体のプランを計画した。さらに敷地全体に大きな正方形をかけ、その正方形により空間を切り取り内外の境界とした。

空間の内部では魚がとどまる正方形は水槽になり、その他にも料理教室、ホール、階段室になる。また、内部は海も深さが変化するようにゆるい階段により起伏がある。その階段は時には休憩するベンチになったり、アリーナのような効果も生み出す。また人がとどまる正方形が階段により人がとどまりやすいように設計している。段差による最大深さは4000mmにいたり、バックヤードのアクセスやトイレなどヴォリュームは地上レベルからは見えないようになっており、ファサードは水槽に埋め尽くされている。

空間の外部では魚のとどまる正方形は北側の平野川からくみ上げた水や浄化するための浄化池や水鑑となったり水槽になる。人がとどまる正方形は浄化設備や外部の質の違う場を形成する。



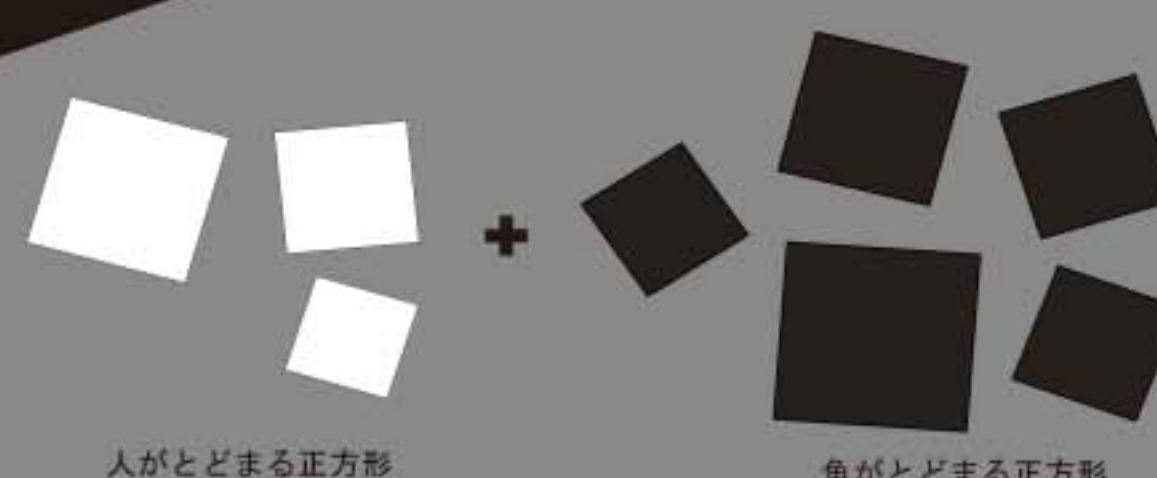
Concept

陸に切り取られた海。

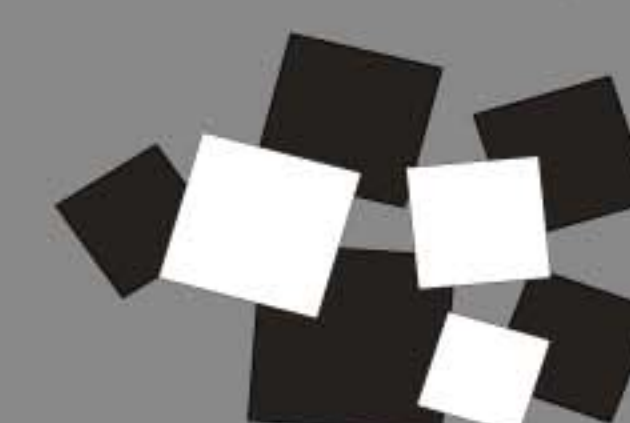
その内部は、海に侵入した感覚になる

ワクワクするような空間。

Diagram

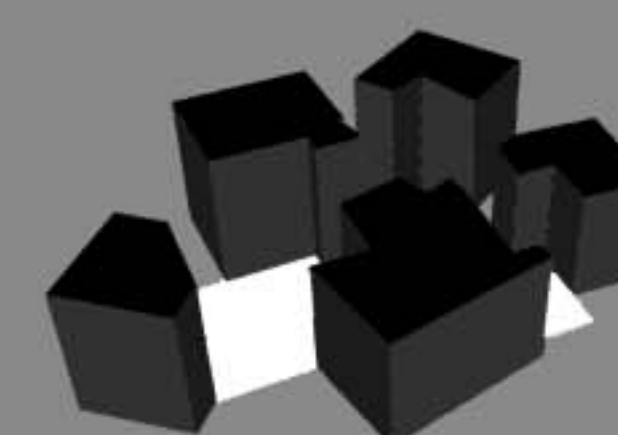


正方形を重ねる



人にとどまる正方形と魚にとどまる正方形が重なり、人にとどまる魚にとどまる正方形を切り取る

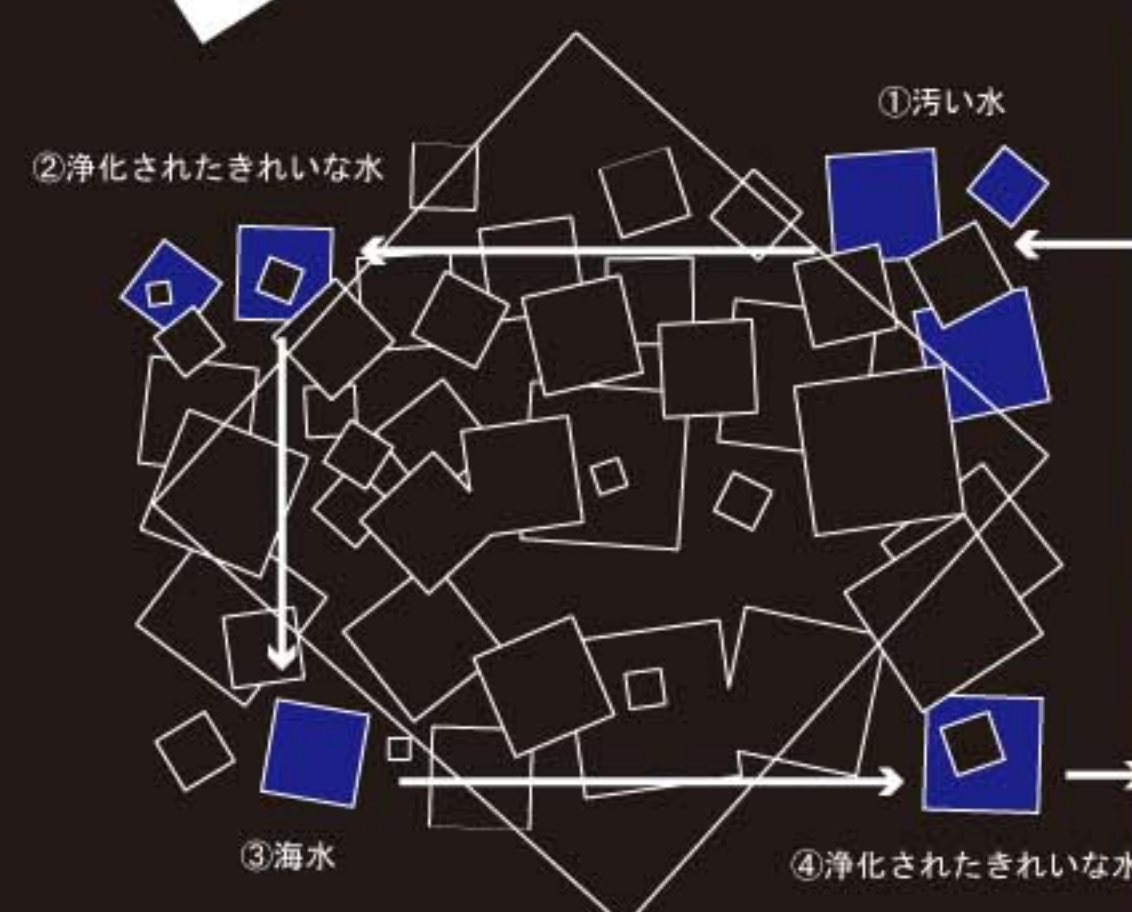
切り取られた正方形を持ち上げる



魚にとどまる正方形は持ち上げられ水槽としてヴォリュームが立ち上がる。人にとどまる正方形は壁に囲まれるまけではないが水槽によりヴォリュームが浮かび上がり、人々はそのとどまり様々な用途に使えるフレキシブルな空間となる。

System

水槽の水は平野川の水をポンプでくみ上げ浄化を行い海水にして使う。また、海水は真水に戻しきれいに浄化された状態で平野川にもどす。



平野川

Problem

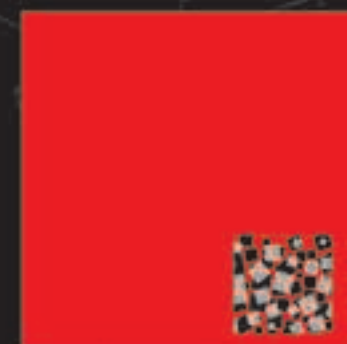
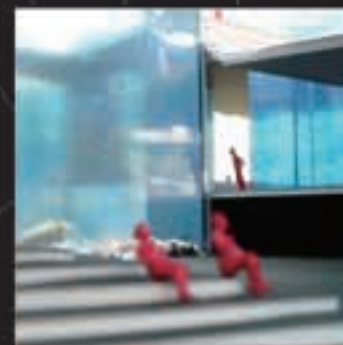
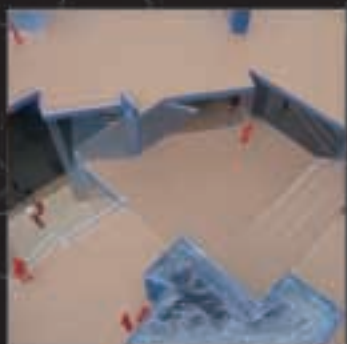
現在の世の中は食の安全に関してニュースの話題に上ることが多い。また、地球温暖化などの影響により環境問題への関心が高まりつつある。水の都・大阪と言われているが、大阪の水環境はいい状態ではない。そこで、この食の安全問題と水環境問題を共に世間知ってもらうために大阪中央卸売市場という場所に水族館のような教養施設と水質浄化施設を設計する。

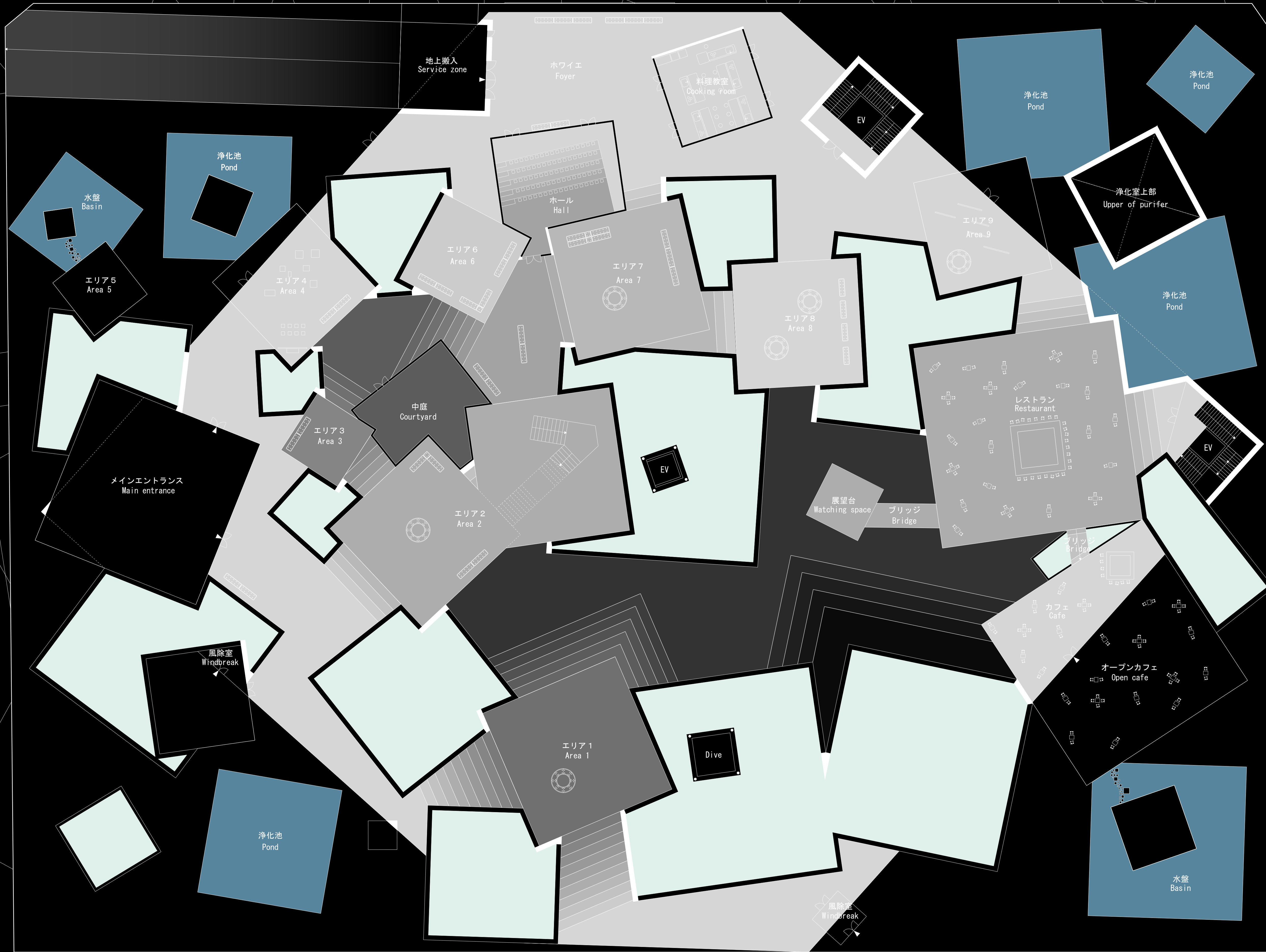
また、現代の子たちはどのような過程をたどり食卓に魚料理が並ぶのか知らないことがある。海の生物であるのはわかっていても切り身の状態で海に存在すると思っている子供も実際存在する。特にこのような子供たちに食について楽しみながら知ってもらえる身近な空間を作る。

敷地は現在の大阪中央卸売市場東部市場の東部加工食品部が存在する場所である。東部加工食品部は東部市場とは今里筋を挟み離れて存在する。

北側には大和川からの分水である平野川が流れている。大和川は日本の一級河川の中でも汚染が激しく問題になっている。つまりそこからの分水の平野川も汚染が進行して問題になっている。

Site





平面構成は基本的に正方形の重なりで成り立ち、重なった部分を削られた正方形と削る側の正方形で構成される。

削られた側の正方形は基本は水槽として立ちあがりヴォリュームを作る。水槽以外にもホールや料理教室など別の用途を持ったヴォリュームも存在する。

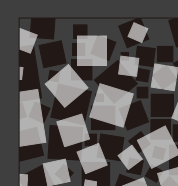
また削る側の正方形は周囲をヴォリュームで囲まれ切り取られた空間が生まれる。

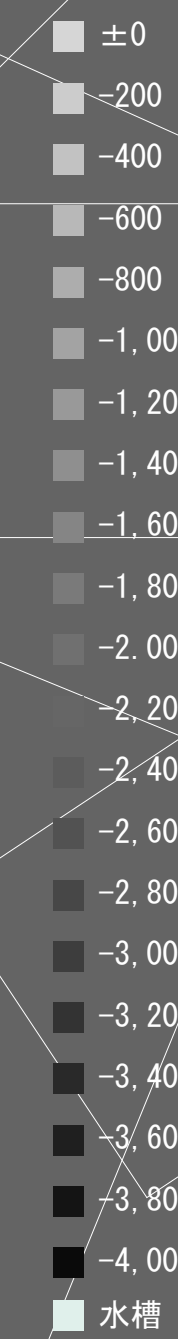
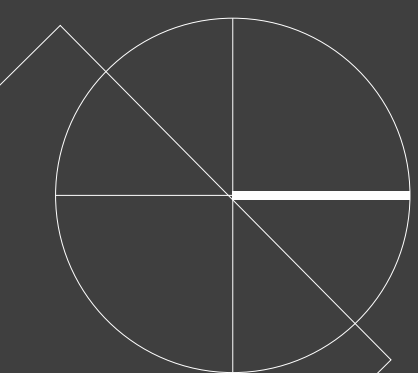
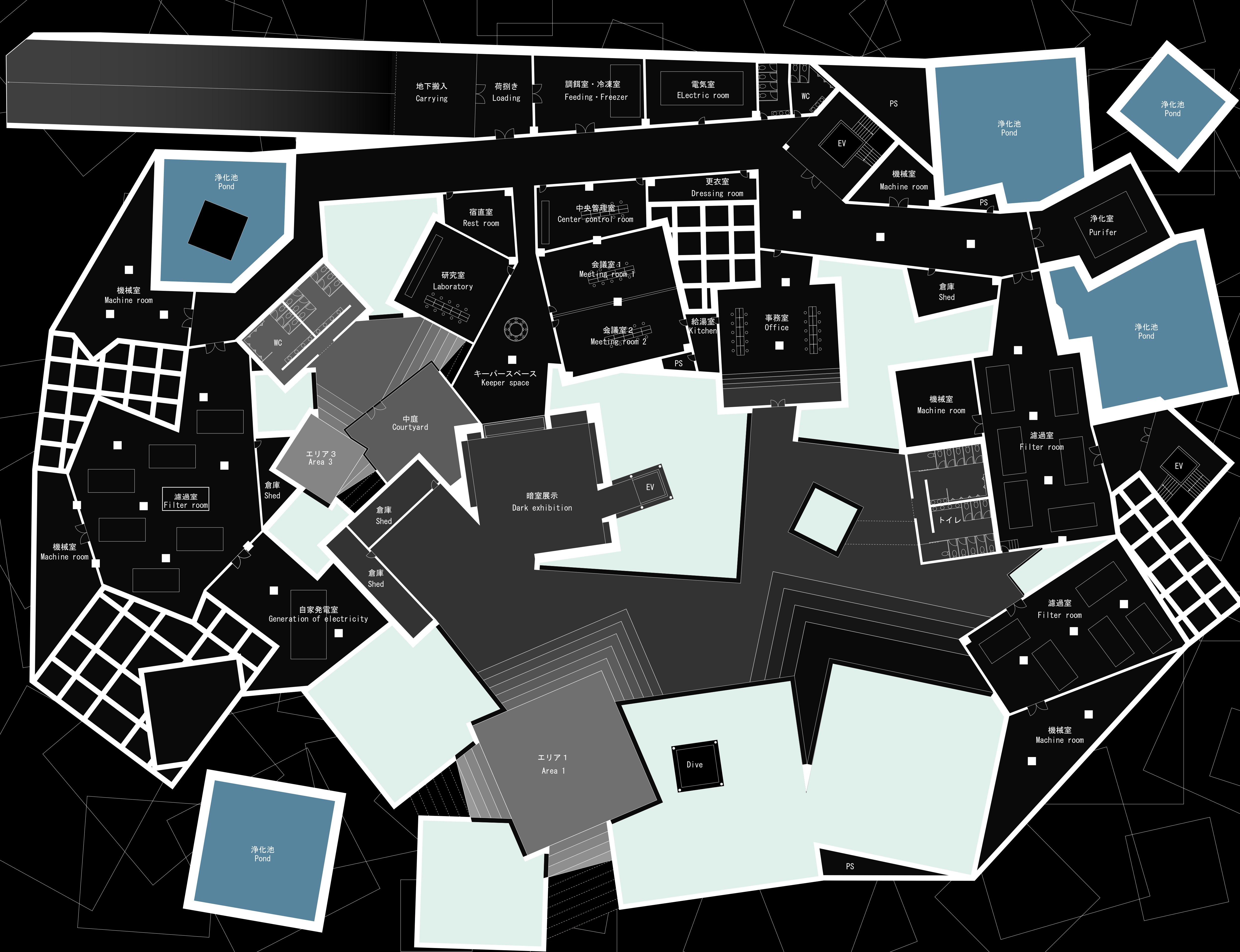
それらの空間では基本は水槽を泳ぐ魚を見学するスペースになる。しかし、時には小学生の社会見学のレクチャースペースになったり、浄化施設の見学のスペースになったり、美術館の企画展のようになったり、東部市場の特設販売の場になったり、そこに泳いでいる魚をその場でさばいて食べるようなフードコートなどの様々なスペースになる。

正方形の以外の部分は段差のついた人の同線になる。その段差は1mごとに20cm落ちるゆるい階段で、いろんな場所で座りながら水槽を鑑賞できるベンチの役目も果たす。



First floor plan S=1:200





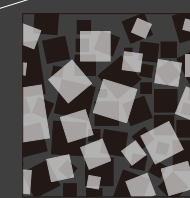
地下スペースでは周りが水槽に囲まれ、海の中にあるような錯覚に陥る。
震度が深まるために海のような圧倒的なスケールを体験することができる。
最深部ではこの施設で最も大きいメインの水槽をシアターのように見れるように2mで20cm落ちる階段状のギャラリースペースがある。また、地上レベルからのレベル差を利用した洞窟のような暗い空間もある。

地下スペースの半分以上はバックヤードになっている。
バックヤードへは地下レベルからのアクセスと地上レベルからの階段とエレベーターの縦動線と搬入のスロープからのアクセスとなる。また、トイレやバックヤードなどの必要なボリウムが地下に収められているために地上レベルからの立面には水槽が見えない。

構造は独立柱と階段室の壁とエレベーターとアトラクションの乗り物を囲うトラスと水槽の一部にはいる壁柱によって屋根が支えられている。
水槽の一部にはいる壁柱はメインストリート側と駅からのアクセスとなるメインエントランス側の立面に直接現れないように設計されている。
その構想壁は立面からは少なくとも1度は水槽を通るように考えられている。

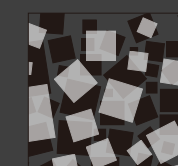


Basement floor plan S=1:200

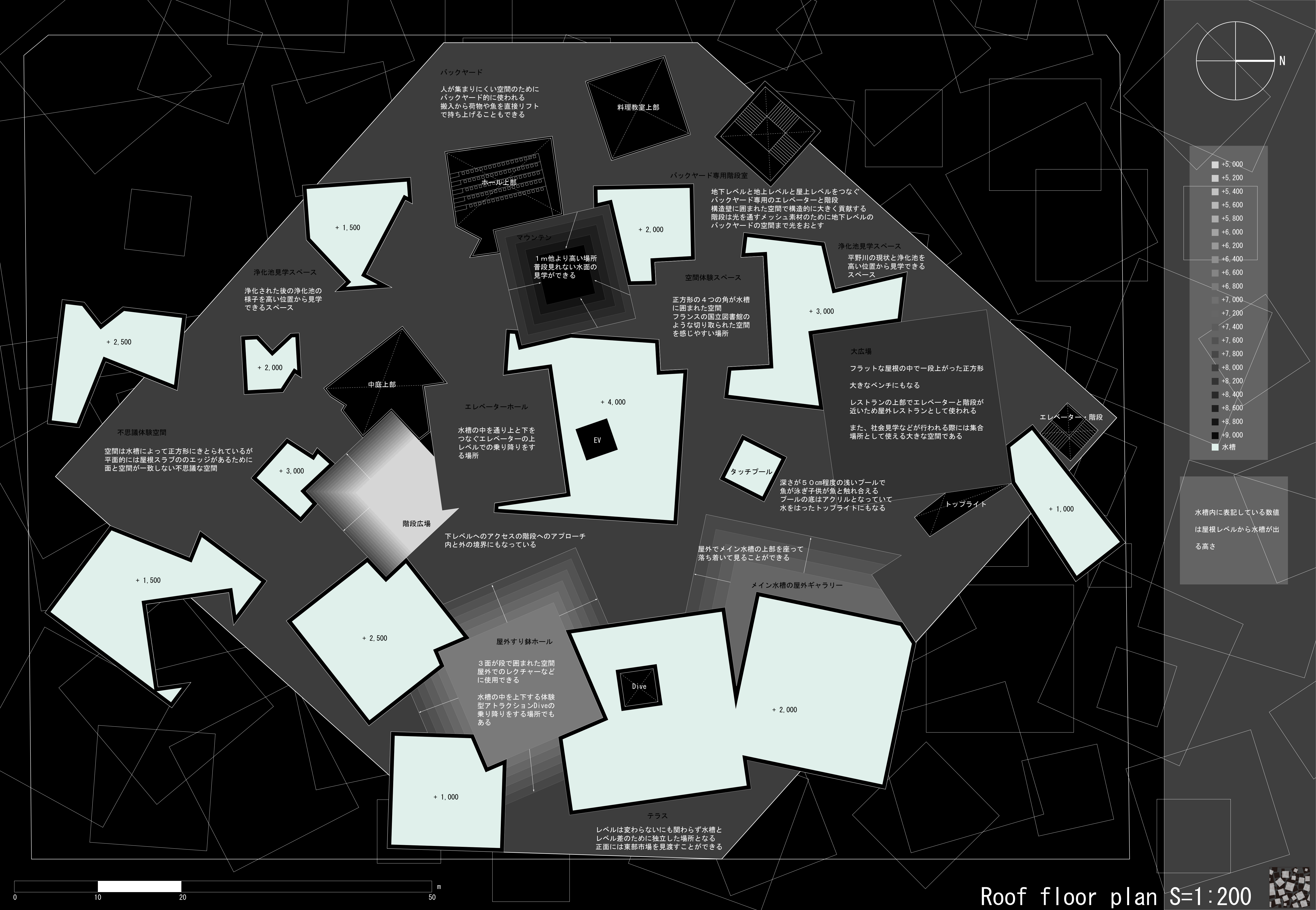
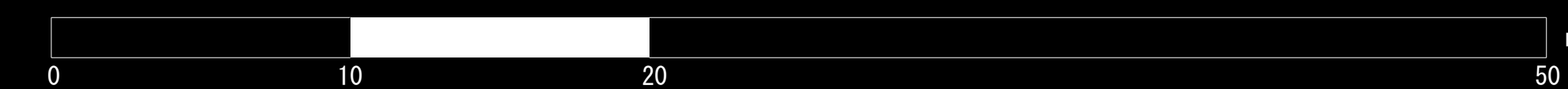


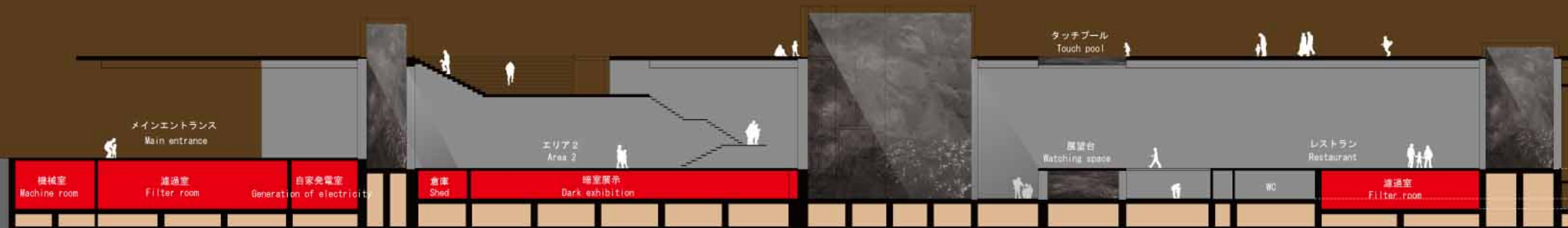
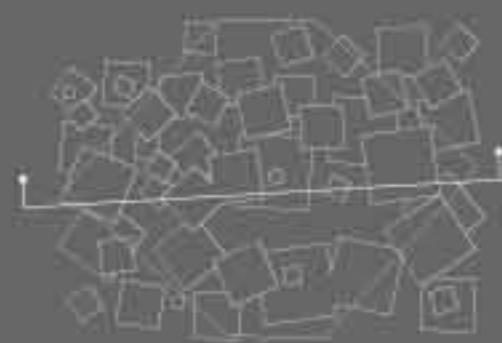
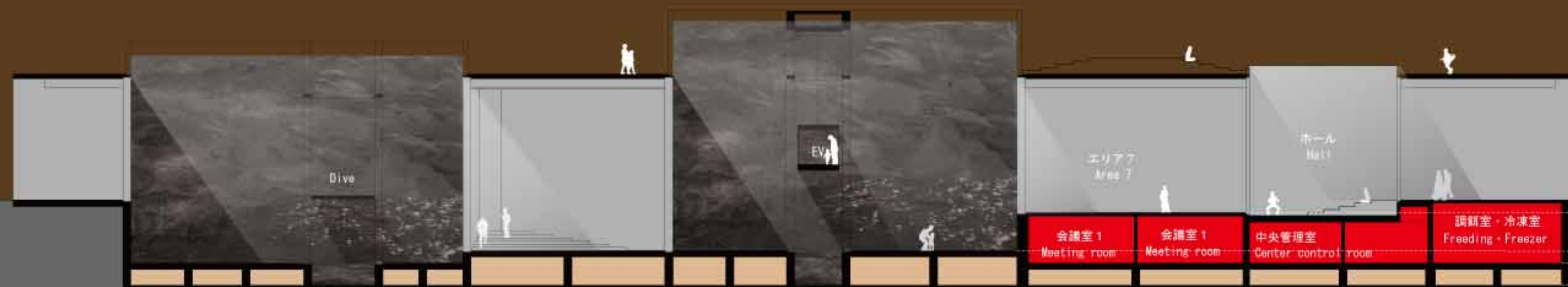
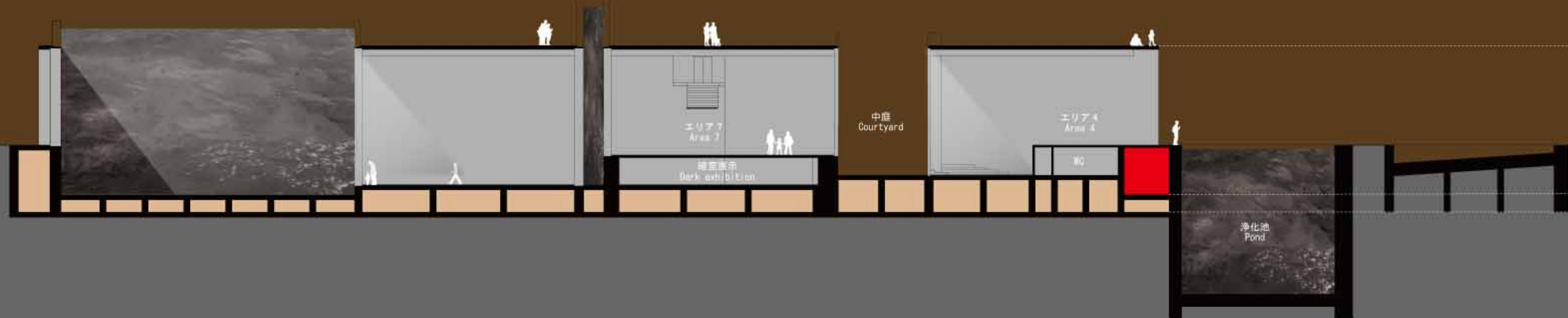


水槽内に表記している数値
は屋根レベルから水槽が出
る高さ



Roof floor plan S=1:200

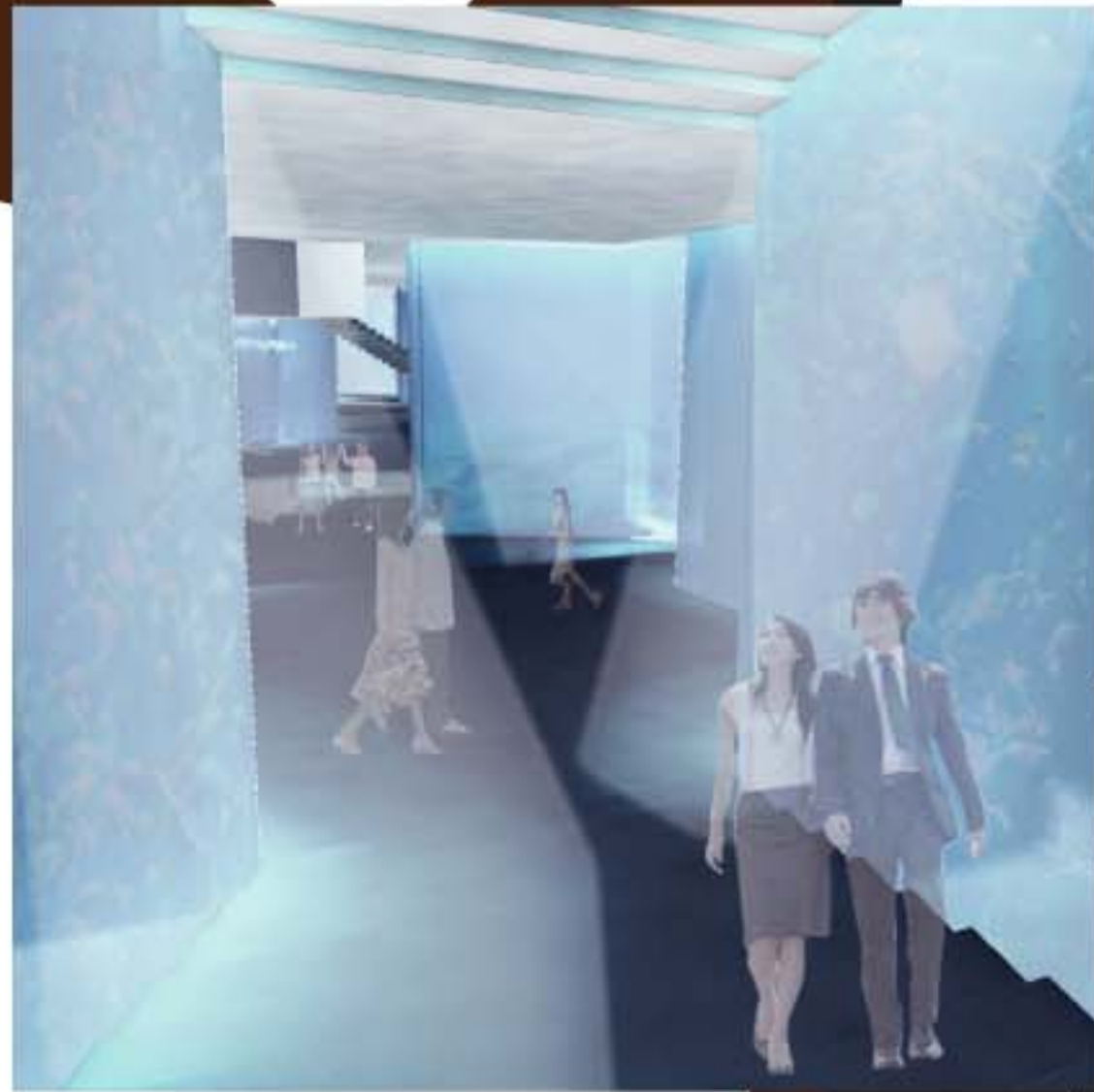




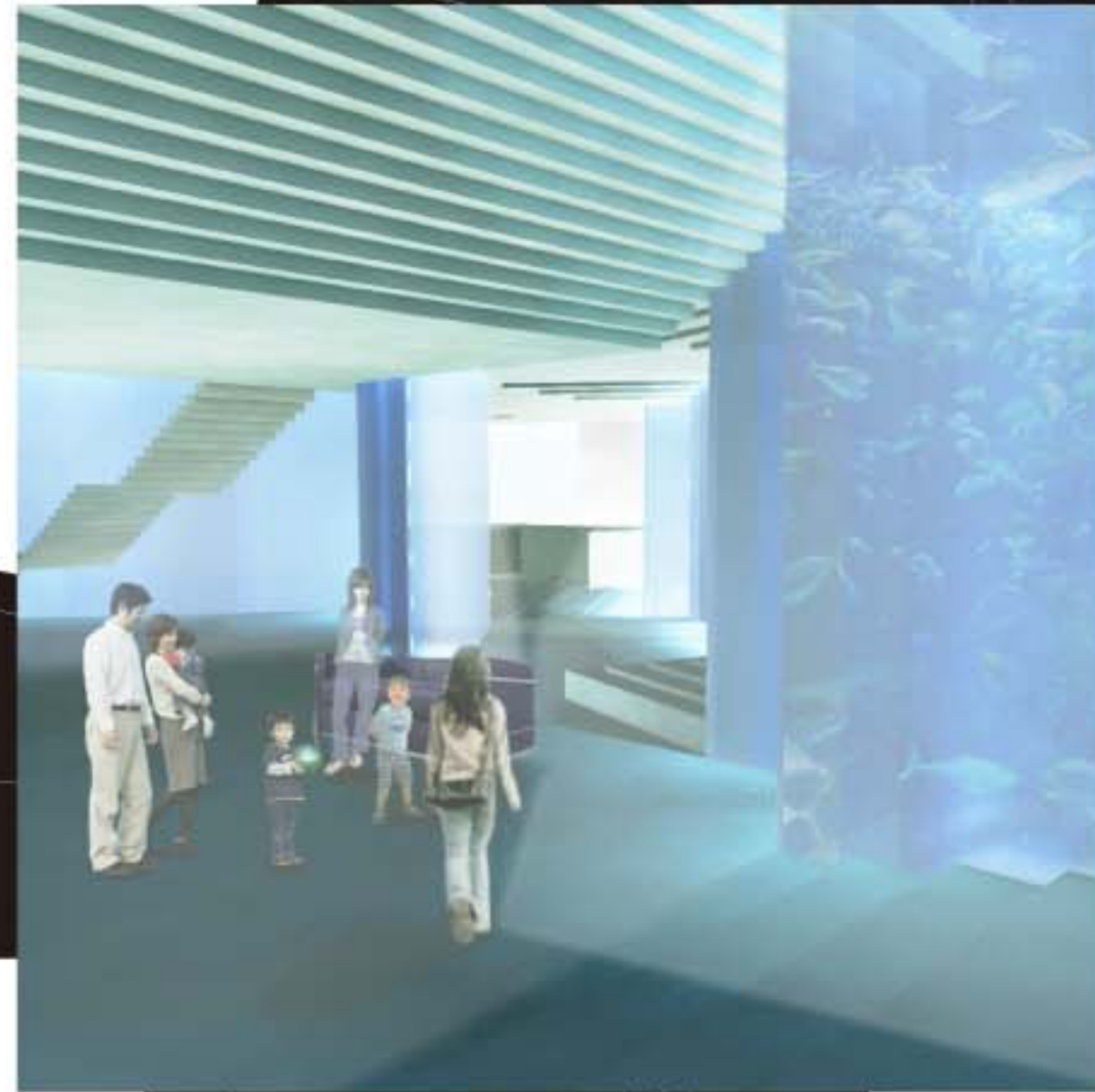
Sections S=1:200



South elevation



水槽から室内へと光おちる
人々はゆるい階段に導かれるように歩き
海の中を歩いてる錯覚を起こす



水槽にかこまれた正方形の空間
子どもたちが走り回る
落ち着いて水槽をながめる
こともできる



外から見るカフェ部分
立面にも水槽が現れファサードは
切り取られた海のようなになる

屋上階では屋外水族館になる
下層部分から水槽がつながっており
水面に近い高い位置で魚をみることができる



East elevation

